

相談支援専門員

頑張っているお母さんたちが

力を抜いて話せる存在に



相談支援事業所あすなろ
相談支援専門員
横山 桂子さん

相談支援専門員8年目。
事業所として135人の
障がいのある人の支援に
携わる。



③・⑥ページのりこちゃんの
計画相談を担当

02 員

方々に対応
できる事業
所は少なく、選択肢
が限られるのが現状
です。すぐに解決は難
しいですが、地域の課題
としてご家族の声を事業所
が集まる連絡会議の場等で
共有しています。

お子さんの成長を
一緒に感じたい

相談支援専門員として大
事に行っているのは、本人が
大人になった後も関わり続
ける仕事なのでご本人の成
長と一緒に感じること。りこ
ちゃん(③・⑥ページ)とは、
退院して地域で生活を始め
るところから関わり始めて、
現在は3か月に1回、モニ
タリングで会っていますが、
話しかけた時の目や身体の
動きで、年々周りのことに
興味を持つようになってい

たまたまケアが必要なだけ
近所の子どもを見るように
自然に関わってほしい

ママに聞きました



りこちゃんママ
(③・⑥ページ)

何をしたらいいのか、
どんなサービスがあるか
を相談できました

りこの相談支援で横山さんに関わっていただき、現
在はモニタリングで3か月～半年に1回、自宅でお
話をしています。最初にりこが退院して、まず何を
したらいいのか、どういう福祉サービスがあるのか、
右も左もわからない状態でしたが、横山さんに「こ
ういうところがありますよ」と放課後等デイサービ
スやレスパイトケア等を教えていただきました。と
にかくこちらから聞くしかない中で、情報をつなげ
てくださる方がいるのが一番助かりますね。

もいい。そういう話をしてもら
えるような存在になりたいと
思っています。

医療的ケア児というと、わか
らないことがあるから特別に思
いがちですが、たまたまケアが
必要なだけで、一緒にこの地域
で育っているお子さんです。近
所の子どもを見るように、自然
に関わってほしいですね。

医師

03



北里大学メディカルセンター救急科・脳神
経外科副部長／北本市商工会青年部副部長
田村 智さん

二次救急で知った医療的
ケア者を取り巻く課題

医療的ケアを必要とする患者さん
と関わったのは、北里大学メディカ
ルセンターで二次救急(※)に従事
するようになってからでした。近隣
のクリニックから「医療的ケア者の
患者さんを受け入れてもらえない
か」と連絡が入り、話を聞くと、患
者さんが幼いころから両親が東京の
病院に連れて行っていて、地域にか
かりつけ医がなく、両親も高齢にな

多職種・多機関が連携
「パステルタッグプロ
ジェクト」

り、東京の病院に通うのが大変
になっていくとのこと。本来な
ら医療的ケア児からケア者にな
るときに小児科から成人の診療
科に移るはずが、スムーズに移
行していない、いわゆる「18歳
の壁」があるんですね。そういつ
た方々に支援が必要じゃないか
と思ったんです。

北里大学メディカルセンター救急科で唯一
の専従医。前任では最もハイレベルな救命
救急医療(三次救急)に従事。商工会にも
所属し、地元のイベントに積極的に参加。

医療的ケア児が大人になっても

安心して地域で暮らせる医療体制を

子どもから大人
に移行する医療的
ケア児を地域で支え
ていく医療体制をつ
くるため、北里大学メ
ディカルセンター・シャ
ローム病院・地域センタ
ーたいよう・社会福祉法人昂が
協働する「パステルタッグプ
ロジェクト」を2024年
から展開し、当事者や関係
する多職種の人たちがとも
に学び、意見交換する研修
会を年2回開催しています。

また、北本市商工会青年部
として「スポラボ」という
イベントを今年の1月に開
催し、医療的ケアの啓発プ
ースを出展しました。医療と
は関係ないイベントでたま
たま通りがかった人に見て
もらえたので、医療的ケア
を地域の日常に位置付けら
れたのが良かったですね。
私たちとしては、支援者

医療的ケアは日常
ともに生きる仲間を増やしたい

を増やすのではなく、ともに生
きる仲間を増やしていきたい。当
事者の皆さんとお話すると、私
たちが思う以上に一人ひとりが自
分らしく暮らしていて、そんなに
身構える必要はないと思います。
医療的ケア児支援法が今年の7

月に改正され、支援の対象が成
人や重症心身障がい者に拡大さ
れました。私たちは現場でこれ
を実現できるよう、障がいの有
無に関係なく、だれもが地域で
自分らしく安心して暮らせる医
療を提供していきたいです。

パステルタッグ プロジェクト



パステルカラーのように多様な職
種・立場が混ざり合うという願いが
込められています。医療的ケア児者
や家族、医療・福祉・行政等が特別支援学校や事業所
等を訪問し、意見交換を行ってきました。5月の「気
管切開ケア」実践研修には現地に51人が
参加。次回11月の研修のテーマは「きよ
うだい支援」を予定。



スポラボ！

北本市商工会青年部主催のスポ
ーツ&カルチャー体験イベント。1
月にミドリテラスで初開催し、
約2,000人が来場。「まちのみな
なの医療的ケアひろば」では、医
療的ケア者の写真やケア用品の展
示、ケア具を使った吸引などを約
100人が体験しました。

